※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２１

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「高等学校　数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	クリアー　数学Ⅰ＋A　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では問題を解くときに、「 問題を理解する→解法の方針を立てる→解いてみる」の過程を意識しましょう。
・授業を大切にしてください。すべての基礎・基本は授業にあります。それらが定着することによって新しい内容を理解し、問題が解けるようになります。
・問題を解くときは途中式や考え方を書く習慣を身に付けましょう。わからないところは教科書や授業ノートを見直したり、質問をして解決しましょう。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	式の計算	整式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解	a: 式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと、そして、乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。 b: 一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。 c: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	実数	実数 根号を含む式の計算	a: 簡単な無理数についての四則計算ができる。数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解している。 b: 数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察することができる。 c: 数の体系を拡張する過程や数の四則計算に関心をもち、それらを数の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	1次不等式	不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式･不等式	a: 数量の関係を１次不等式で表したり、不等式の性質を基にして、１次不等式を解いたり、１次不等式の解を数直線上に表したりすることができる。不等式の中に含まれている文字の意味や不等式の性質及び１次不等式とその解の意味を理解し、解を求めるための基礎的な知識を身に付けている。 b:１次不等式の解について、数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして考察することができ、不等式の性質を等式の性質と対比して捉え、不等式の性質を基にして、１次不等式の解き方を考察することができる。 C: 数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え、それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など

※令和４年度以降入学生用

	集合と命題	集合 命題と条件 命題と証明	a：与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆・裏・対偶について真偽を証明したりすることができる。集合に関する基本的な用語・記号を理解し、命題の必要条件・十分条件、逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。 b：ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。 c：集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
２学期	２次関数とグラフ	関数とグラフ 2次関数とラフ	a：２次関数$y = ax^2 + bx + c$ のグラフと$y = ax^2$ のグラフの位置関係を調べることができる。関数の定義域・値域の意味や２次関数の式やグラフの特徴について理解している。 b：２次関数の式とグラフを関連付けて考察することができる。 c：関数の概念を具体的な事象の考察に活用しようとしている。２次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを２次関数の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	２次関数の値の変化	2次関数の最大･最小 2次関数の決定	a：２次関数のグラフや式を用いて、２次関数の最大値・最小値を求めることができる。２次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。 b：２次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。 c：２次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に２次関数の最大・最小を活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	２次方程式と2次不等式	2次方程式	a：２次関数のグラフと x 軸の位置関係を２次方程式の解を用いて求めることができる。２次関数のグラフとｘ軸の位置関係と２次方程式の解との関係を理解している。 b：２次関数のグラフと x 軸の位置関係を、２次方程式の解に対応させて考察することができる。 c：２次関数のグラフと x 軸の位置関係を基に、２次方程式の解について考察しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など

※令和４年度以降入学生用

		2次不等式	a: ２次関数のグラフを活用して２次不等式の解を求めることができる。２次不等式の解の意味を２次関数のグラフとの関係から理解している。 b: ２次不等式の解を２次関数のグラフを用いて考察することができる。 c: ２次関数のグラフと x 軸の位置関係を基に、２次不等式の解について考察しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	三角比	三角比	a: 直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。 b: 図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 c: 鋭角の三角比に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
		三角比の相互関係	a: 三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。 b: 三角比の相互関係について考察することができる。 c: 三角比の相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。			
		三角比の拡張	a: 90° までの三角比の表を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。 b: 鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c: 鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち、それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。			
3学期	三角形への応用	正弦定理 余弦定理	a: 三角形の決定条件が与えられたとき、三角形の残りの要素を求めることができる。正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解している。 b: 正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。 c: 正弦定理・余弦定理が有用であること認識し、それらを図形の計量に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など

※令和４年度以降入学生用

		正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	a: 三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。正弦定理・余弦定理の利用の仕方及び三角形の面積の求め方について基礎的な知識を身に付けている。 b: 平面図形や空間図形の計量に活用するために正弦定理・余弦定理の式を多面的に見ることができる。 c: 三角比や正弦定理・余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。			
	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差	a: 度数分布表、平均値、中央値、最頻値、四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを求めることができる。度数分布表、平均値、中央値、最頻値、四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味を理解している。 b: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
		データの相関	a: 散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。散布図及び相関係数などの意味を理解している。 b: :散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c: 散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。			

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度